

平成の懷徳堂

大阪大学では、財団法人懷徳堂記念会と協力して、懷徳堂の精神を引き継ぐ様々な活動を行っています。

春秋記念講座

古今東西の魅力あるテーマを一流の講師陣がわかりやすく講演します。

懷徳堂文庫が大阪大学へ移管されたことを記念して昭和26年に開始され、すでに百回をこえています。



古典講座

主として和漢の古典を講読する公開講座です。

昭和58年に開始され、近年は、近現代のテキストや芸術資料などにも対象を拡げています。



懷徳堂アーカイブ講座

懷徳堂文庫の貴重資料やデータベースなどのデジタルコンテンツを公開する、体験型の講座です。



電子化事業

懷徳堂の世界を現代に甦らせるべく、資料の目録や個別資料をデジタル化し、一般に公開しています。



WEB懷徳堂



懷徳堂センター

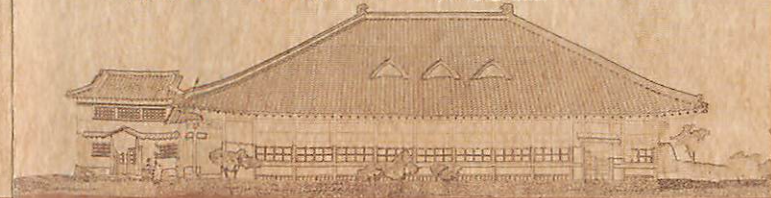
〒560-8532 大阪府豊中市待兼山町1-5
大阪大学大学院文学研究科内
<http://www.let.osaka-u.ac.jp/kaitoku-c/>
電話 06-6850-5088 (FAX 兼)

懷徳堂

KAITOKUDO



大阪大学文学研究科 懷徳堂センター

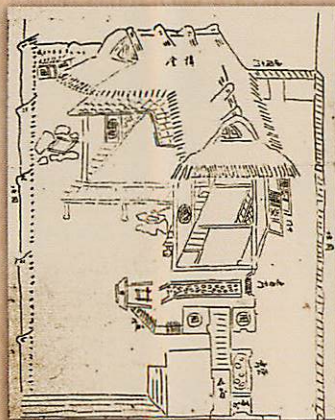


懷徳堂とは

懷 徳堂は、享保9年(1724)、大坂の有力な町人たち(五同志)によって大坂尼崎一丁目(現在の中央区今橋)に創立された学問所です。享保11年(1726)には幕府より「大坂学問所」として公認され、江戸の「昌平坂学問所」と並ぶ隆盛を誇りました。

その経営は幕府の支出によらず町人たちの出資と運用によってまかなわれており、授業料の規定はありましたが、貧しい者は「紙一折」「筆一対」を納めれば学ぶことが許されました。

懷徳堂は、中井竹山・履軒兄弟や富永仲基・山片蟠桃などのすぐれた学者を輩出し、大坂学術の発展と商道德の育成に寄与し続けました。



初期の懷徳堂絵図

堂徳懷

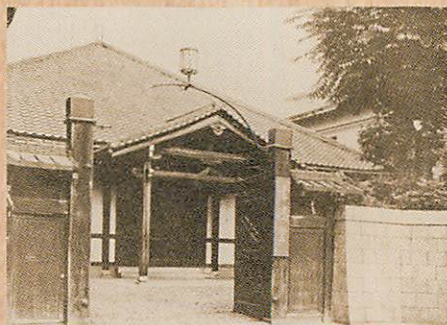
三宅石庵筆「懷徳堂」額

懷徳堂と大阪大学

明 治政府は、旧幕府が認めていたさまざまな特権を一律に廃止し、懷徳堂も地役免除の特権を失いました。校地を維持できなくなった懷徳堂は明治2年に閉校しましたが、明治末年には大阪の政財官界の有志らによって懷徳堂記念会が設立され、大正5年(1916)に懷徳堂が再建されました。(重建懷徳堂)。

帝国大学がながく設置されなかった大阪において、重建懷徳堂は文科大学としての機能を果たし続けましたが、昭和20年の大阪大空襲により校舎や事務所を焼失し、授業の継続は不可能となりました。

戦後、新制の大阪大学に法文学部が設置されたことにもない、重建懷徳堂の資料やスタッフは大阪大学へ移管されました。大阪大学は現在も、財団法人懷徳堂記念会と協力して各種講座や研究・広報活動などを積極的に推進しています。



重建懷徳堂玄関



懷徳堂の貴重資料

大 阪大学では、重建懷徳堂より移管された資料や、戦後独自に蒐集した資料などを「懷徳堂文庫」として一括保存しています。

懷徳堂文庫には、懷徳堂にかかわる学者たちの自筆資料をはじめとして、貴重な書籍・文書や器物類など、室町時代から昭和に至る資料およそ五万点が含まれ、国内外の研究者からひろく利用されています。



中井履軒による
人体解剖図
〔解体新書〕
以前のもの)



懷徳堂学派による
〔論語〕
注釈の一例